

千葉県看護功労者知事表彰 受賞!!

ACT-J

このたび11月18日、訪問看護ステーションACT-Jの看護師 安田泰一が、千葉県庁にて熊谷俊人知事より「千葉県看護功労者知事表彰」を受けました。

千葉県の「看護功労者知事表彰」は、保健師・助産師・看護師・准看護師として長年にわたり看護業務に尽力し、県内の医療・福祉の向上に顕著な功績があり、他の模範となる方を知事が毎年表彰する制度です。1967年度に創設され、約60年にわたり、千葉県内の看護専門職の中から選ばれた方だけが受賞してこられた、大変歴史と権威のある表彰であります。また、30年以上の看護実務経験や、県内での長年の勤務、模範となる人物であることなどが求められる、非常にハードルの高い表彰とされています。県内で毎年選ばれるのは20人前後とされており、その意味でも大変希少で「狭き門」の受賞です。

安田看護師は、長く病院で経験を積んだのち、ご縁が重なり訪問看護ステーションACT-Jに加わりました。

現在は、在宅で療養する精神疾患を持つ利用者さんに地域精神看護を提供するとともに、ご家族が精神疾患について学ぶ会を立ち上げ、家族支援にも継続して取り組んできました。こうした息の長い実践が評価され、今回の受賞につながりました。

本人からのコメント



このような栄誉ある表彰をいただき、光栄に思っています。私は看護師になり、病院に長年勤務後、様々な方からのご縁に導かれて、訪問看護ステーションACT-Jに勤務して15年となります。在宅で療養する精神疾患を持つ利用者さんに地域精神看護を提供し、同時にその家族が精神疾患について学ぶ会を立ち上げ、家族支援も行ってきました。

利用者さんと出会い、対話の中で個々のリカバリーに寄り添い、支援をさせてもらったことが、実を結んで認めていただいたことを大変嬉しく思っております。

この表彰は、職場の皆様のお陰だと思っております。日々共に利用者さんと向き合い、支えてくださっているACT-Jのスタッフ一人ひとりの力があってこそこの受賞です。

また、ご自身の困難と向き合いながら、私たちを信じて訪問を受け入れてくださった利用者さんとご家族の皆さまには、たくさんの学びと気づきを頂きました。皆さまとの出会いが、私の看護人生を豊かにし、今回の受賞へつながったと感じております。

改めて、職場のスタッフの皆様、そして利用者さんとご家族の皆さまに、心から感謝申し上げます。



右:安田
左:カバン持ち担当の斎藤

特定非営利活動法人
リカバリーサポートセンターACTIPS
訪問看護ステーションACT-J

No.33



発行年月日
2025年11月21日

発行人
長谷川・斎藤

新理事就任のお知らせ

このたび、下記の2名が新たに理事として就任いたしましたので、お知らせいたします。

・松尾 明子 氏 特定非営利活動法人ほっとハート 理事長
・津嘉山 太 氏 合同会社ACTひろしま

新体制のもと、より一層地域に貢献できるよう努めてまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

パイナップル、育ててます！

今年6月に食べたパイナップルの“あたま”を植えてみました。南国気分で水やりしつつ、実がなる日を夢見てお世話中です。実ができるまで2~3年かかるそうなので、のんびり成長を見守ります。まずはこの冬を元気に越せるかが勝負！パイナップルくん、頑張れ～！



理事の伊藤順一郎さん、新書を発刊！

『精神医療・心のケアを問い合わせ——対話・文化・ヒューマンライツ』

遠見書房



——今回の出版はどのような思いから始められたのですか。

伊藤さん：

この本を作るにあたって、対談という形を選んだのは、人の尊厳や人権といった「ヒューマンライツ」の考え方方が、治療の現場でどう扱われているのかを確かめたかったからです。

精神療法やカウンセリング、介護などの分野で、既存の在り方とは少し異なるスタンスで取り組んでいる皆さんのお話を伺うことで、これから的精神医療や福祉のあり方を問い合わせきっかけになればと思いました。

——対談を終え4人の印象はいかがでしたか。

伊藤さん：

それぞれの方が臨床や研究の中で考えていることがより鮮明になりました。印象が深まったという感じです。

——ユマニチュードとの関わりについてもお話をありましたね。

伊藤さん：

ええ。ユマニチュードの示す技術や考え方、精神医療にも十分活かせると思います。

認知症の方のように脳の機能が低下しても、対人関係の中で心が開かれ、良い関係を築こうとする力は残っています。これは特別な人向けの技術ではなく、人間として大切なコミュニケーションのスキルなのだと感じました。

——オープンダイアログとの出会いも大きな転機だったそうですね。

伊藤さん：

はい。以前の私は「できることは支援者がやる」という姿勢が強かったのですが、オープンダイアログを経験してからは、「相手の力を信じる」方向に変わりました。支援者の役割は“解決”を出すことではなく、“対話の場を維持すること”なんだと感じるようになったんです。その場にいる人たちが互いに考えを出し合い、刺激を受け、新しい発想が生まれてくる——そうしたプロセスが支援そのものだと気づきました。

——支援やケアの考え方方が変わったのですね。

伊藤さん：

そうですね。困りごとを突き詰めるのではなく、本人や家族、地域の人たちを交えて話していく中で、自然と助け合いや変化が生まれていく。

支援者が助言しなくとも、場の中から動きが出てくる。そういう関係性がとても大事だと思うようになりました。

——この本をどんな方に読んでほしいですか。

伊藤さん：

精神医療や心のケアに関心のある方、障害のある人との関わり方を考えたい市民の方など、広く読んでもらいたいです。

「こういう発想もあるのか」と感じてもらえるような一冊になれば嬉しいです。専門家だけでなく、一般の方にも届いてほしいですね。

菅野商店会ハロウィン



菅野商店会さん主催のハロウィンイベントに参加しました！あいにくの雨で肌寒い一日でしたが、地元のこどもたちや親御さんがたくさんいらしてくださり、現場はとてもにぎやかで温かい雰囲気に包まれました。



お越しいただいた皆さま、ありがとうございました！かわいい仮装のこどもたちとの交流にスタッフもほっこり笑顔になりました。(10月26日)

ご家族のための退院相談窓口開設

精神科病院に入院されている患者さんのご家族が、退院後の暮らしについて安心してご相談いただけるよう、退院相談窓口を開設いたしました。退院後の不安や迷いを、気軽にお話しできる場があることを、少しづつ広げていきたいと考えています。ご家族がひとりで抱え込まずにすむよう、これからもそっと寄り添いながら、一緒に歩んでまいります。



子ども支援研究会

本年度は、6月と9月に対面形式で開催しました。今回も、学校や医療機関行政機関、福祉機関、訪問看護ステーション、放課後等デイサービスなど子どもの支援に携わる多様な分野の方々にご参加いただきました。事例をもとに意見交換を行い、さまざまな視点を共有することで新たな気づきが生まれ、支援の質をさらに深める有意義な時間となりました。また、参加者同士がつながりを感じ、協働の大切さを改めて実感する貴重な機会になりました。



映画 どうすればよかったです？上映会/対談

当法人・しっぽふあーれ 共同主催

・2/7 (2026) 市川で、

“心が揺さぶられる瞬間”が生まれる！

・観て終わるだけの映画じゃない

・監督と豪華ゲストが、

あなたの「問い合わせ」に正面から切り込む

・2月7日(土) 2026年 10:00~12:50

千葉県市川市 全日警ホール

